

食材のその他の安全分析等の情報 H31-第2号

～自社分析(重金属、防かび剤、着色料)の結果について～

1 月度・その他の安全分析結果(ご報告)

商品本部が新規に取り扱いを検討している食材、及び商品本部が取り扱っている食材を対象に、総合科学新潟研究所が指定して下記の項目について分析を実施し、全ての品目について安全性を確認致しました。

大庄グループのお店で、安心して飲食を楽しんでいただきたいと思います。

☆重金属分析☆

使用食材 2 点を指定し、ヒ素、カドミウム、水銀、鉛の分析を行った結果、全て安全であることを確認致しました。

☆防カビ剤分析☆

使用食材 9 点を指定し、防カビ剤 8 種類の分析を行った結果、全て使用基準の範囲内であり、安全であることを確認致しました。

☆着色料分析☆

使用食材 2 点を指定し、タール系合成着色料 12 種類および天然着色料 2 種類の分析を行った結果、全て検出せず、大庄基準が守られていることを確認致しました。

<参考>

【重金属分析】

- 重金属分析は、ヒ素、カドミウム、水銀、鉛を対象とし、ICP 発光分光分析法により分析を行っています。
- 重金属については、食品に対する国内の基準がないものも多いため、健康への影響を考慮し、国際的な基準に照らし、安全性を確認します。

【防カビ剤】

- 防カビ剤分析は、国内で認められている 8 種類（オルトフェニルフェノール、イマザリル、チアベンダゾール、ジフェニル、ピリメタニル、フルジオキシニル、アゾキシストロビン、プロピコナゾール）を対象とし、ガスクロマトグラフ質量分析による一斉分析を行っています。
- 防カビ剤は、輸入かんきつ類等に多く使用されていて、大量に摂取すると健康への影響が懸念されていることから、食品添加物の残留基準に照らし、基準を超えていないかを確認します。

【着色料】

- 国内で使用できる 12 種類のタール系合成着色料および 2 種類の天然着色料を測定対象として、薄層クロマトグラフィーにより確認をしています。
- タール系合成着色料は、国内では使用が許可されていますが、発がん性等、また、天然着色料は、アレルギー誘発等の安全性に懸念があることから、大庄食品添加物基準では、使用不可としています。取り扱い食品からは、排除していますが、混入がないことを確認するため、調査します。

分析データ

1 食材の重金属分析結果

分析 株式会社大庄 総合科学新潟研究所

No.	品目名	産地 (加工地)	検出重金属	検出濃度 (mg/kg)	参考基準(mg/kg) (コーデックス基準)
1	パイナップル	フィリピン	検出なし		
2	えだまめ	タイ	カドミウム	0.1	0.1 (豆類)

※分析対象重金属 4 種：ヒ素、カドミウム、水銀、鉛

【検出されたカドミウムについて】

- ① えだまめのカドミウムにおける国内基準値がないため、国際規格のコーデックス委員会の基準値[豆類(乾燥した大豆を除く)：0.1 mg/kg]と比較評価しました。
- ② カドミウムは自然界に広く分布しており、分析により多くの農産物で検出されます。今回の結果は 0.1 mg/kg であり、安全性に問題はありません。

2 食材の防カビ剤分析結果

分析 株式会社大庄 総合科学新潟研究所

No.	品目名	産地 (加工地)	防カビ剤		
			検出防カビ剤	分析値 (g/kg)	使用基準 (g/kg)
1	グレープフルーツ	アメリカ	オルトフェルフェノール イマザリル	0.001 0.0004	0.010 0.0050
2	かぼちゃ	メキシコ	検出なし		
3	キウイフルーツ	ニュージーランド	検出なし		
4	パイナップル	フィリピン	検出なし		
5	オレンジ	オーストラリア	イマザリル チアベンダゾール	0.0019 0.001	0.0050 0.010
6	オクラ	タイ	検出なし		
7	黄パプリカ	韓国	検出なし		
8	チーズフライ	(日本)	検出なし		
9	えだまめ	タイ	検出なし		

※分析対象防カビ剤 8 種：オルトフェルフェノール、イマザリル、チアベンダゾール、ジフェニル、ピリマクトール、フルジカゾール、アゾキシストロビン、プロピコナゾール

3 食材の着色料分析結果

分析 株式会社大庄 総合科学新潟研究所

No.	品目名	加工地	着色料
1	梅肉	日本	検出なし
2	チーズフライ	日本	検出なし

※分析対象着色料 14 種：赤色 2 号、赤色 3 号、赤色 40 号、赤色 102 号、赤色 104 号、赤色 105 号、赤色 106 号、黄色 4 号、黄色 5 号、緑色 3 号、青色 1 号、青色 2 号、コチニール色素、ラック色素